

# 子どもの「夢」の分析 — アンケート結果から —

山本 和人

## はじめに

数年前の正月の新聞に、「遠くを見る目」が今のおとなには衰弱しているのではないかという社説が掲載されていた(注1)。世代を超えたもの、時代を超えた価値である、「よいもの、美しいもの」に目を凝らし、問題に真正面から取り組んでいかなければならないことを訴えていた。以来、その言葉がいつもどこか心の片隅に、飛び出た釘のように存在している。おとながそうした遠くを見る目を持てなければ、子どもが持つこともまた難しいのではないか。おとなが「夢」を見ることができなければ、子どもも夢を見ることができなくなってこよう。そうしたおとなの変化は、子どもにも変化をもたらしているのだろうか。子どもが変わったといわれる中で、子どもたちは夢をどのように描いているかを探りたいと考えた。

本稿では、限られた範囲で実施されたパイロットサーベイの調査結果ではあるが、将来どのような職業に就いていきたいと思っているか、子どもがどのような夢を持っているのかについて、調査結果から検討する

## 1 調査について

調査は「社会調査実習」の授業の一環として、埼玉県内から、さいたま市、鳩ヶ谷市、狭山市等における小学校・中学校に協力を得て、実施されたものである(注2)。対象は、小学校5年生から中学校3年生までである。

有効回収調査票は402票であった(注3)。

「夢」を分析するに当たり、夢そのものをどう捉えるかということについて、ここでは、3つの角度から検討することとする。すなわち、「将来やりたい仕事があるか」「あこがれる人物がいるか」「何でもできるなら、何がしたいか」の3つである。

また、「夢」に影響を与えるものとして、①本人の好みや性格に加え、子どもの環境条件である、②友人との生活や関係、③先生や学校との生活や関係、④家族・親等との生活や関係、等を想定した。ここではかなり限定して、それらとの関係を見ることにしたい。

## 2 今どきの子どもたち

### (1) 趣味・特技

今の子どもたちは、どのような趣味や特技を持っているであろうか。まず、「趣味・特技を持っている」と回答したのは、79.4%(319)である。「ない」は19.9%、不明が0.7%であった。5人のうち4人は「趣味・特技を持っている」と回答している。性別に違いを見ると、男の子の74.1%、女の子の85.9%が「持っている」と回答しており、検定の結果、女の子に危険率1%未満で有意に多いことがいえる。

趣味・特技の内容は、表1のとおりである。厳密には「趣味」と「特技」は異なるが、調査時の質問では「趣味・特技」の有無という形でたずねた。そのため、別々に記入してい

表1 大分類項目で分けた趣味・特技

(複数回答)

競技スポーツ		運動・スポーツ		創作・製作		技術を磨く		音楽		収集		その他	
野球	38	スポーツ・運動	9	絵を描く	21	ゲーム	26	音楽を聴く	25	買い物	2	記入なし	6
サッカー	37	一輪車	7	書道	9	将棋	4	ピアノ	18	カード集め	1	寝ること	6
テニス	22	マット運動	4	マンガ	6	ビリヤード	2	歌を歌う	8	シール交換	1	お菓子	4
バスケットボール	21	走ること	4	料理	6	メールの早打ち	2	楽器の演奏	6	キャラクター	1	ボーッとする	1
水泳	17	ソフトテニス	3	小説	3	ラジコン	2	音楽	3	なめねこグッズ	1	甘いものを食べる	1
バレーボール	9	ダンス	2	ビーズアクセサリー	2	耳を動かす	2	太鼓	3	フィギア	1	色々・・・秘密かな	1
卓球	8	なわとび	2	手芸	2	カルタ	1	カラオケ	2	ブリクラ	1	小計	19
バドミントン	7	パラパラ	2	手紙を書く	2	ジャングルリング	1	太鼓をたたく	2	石集め	1		
ソフトボール	4	リズムなわとび	2	ジグソーパズル	1	ダーツ	1	ヴァイオリン	1	切手集め	1		
剣道	3	外で遊ぶ	2	デコトラ	1	マジック	1	コンサート	1	貯金	1		
ソフトバレーボール	3	跳び箱	2	プラモデル	1	一発芸	1	トランペット	1	ショッピング	1		
空手	2	キャッチボール	1	フラワーアレンジメント	1	携帯いじり	1	トロンボーン	1	小計	12		
スキー	2	サイクリング	1	音読	1	耳がなる	1	小計	71				
陸上	1	ジャズダンス	1	家事をすること	1	手先が少し器用	1			学習・研究			
軟式テニス	1	ドッチボール	1	書くこと	1	鳥の鳴き声のマネ	1	観察・視聴		読書	43		
走り幅跳び	1	ハイキング	1	水彩画	1	頭を動かす	1	映画鑑賞	5	パソコン	13		
水球	1	バトン	1	折り紙	1	変な目	1	インターネット	4	英語	3		
柔道	1	プロ野球	1	服のデザイン等	1	小計	49	テレビ	3	そろばん	3		
硬式テニス	1	ローラースケート	1	縫い物	1			人間観察	2	歴史	1		
競泳	1	散歩	1	話すこと	1	交流		ドラマ	1	勉強	1		
球技	1	持久走	1	小計	63	友達と遊ぶ	15	バードウォッチング	1	雑誌を読む	1		
ラグビー	1	鉄棒	1			動物とのふれあい	2	ホームページ	1	小計	65		
マラソン	1	踊ること	1			小さい子の世話	2	車	1				
スケート	1	立ちブリッジ	1			犬と遊ぶ	1	鉄道	1				
シンクロ	1	小計	52			おしゃべり	1	鉄道模型	1				
小計	185					小計	21	小計	20				

る回答もあった。また、この表1を作成するに当たっては、回収した調査票に書かれた事柄から、名詞を中心に取り出してカウントした(注4)。ただし、この結果は1人で2項目以上あげた場合、項目数をカウントしてあるので、「趣味・特技がある」と回答した319名よりも項目の合計数は多い(総項目数は557である)。

また、表1は、回答として得られた記述をさらに10の大項目に分けて分類してみた結果である。それぞれの回答数は多い順に、①「競技スポーツ」関係が合計185、②「音楽」関係が71、③「学習」関係が65、④「創作・製作」関係が63、⑤「運動・スポーツ」関係が52、⑥「技術を磨く」関係が49、⑦「交流」関係が21、⑧「観察・鑑賞」関係が20、⑨「その他」10、⑩「収集」関係が12、となっている。

ここから見えてくることは、次のようなことである。

①最も多い回答は、「読書」となっているが、野球などの競技スポーツや運動、ゲーム、音楽、コンピュータ関係などが多い。

②大項目で見れば、「スポーツに関係したもの」が非常に多くの子どもたちから選ばれているといえる。

③項目をまとめる方向で集計したが、実に多様な趣味・特技があげられている。

④単独の項目でそれなりの人数があげているものに、「友達と遊ぶ」のように、スポーツやゲーム以外での友達との関わりがあげられている。

ここで示されている趣味が、後に見る子どもたちの将来の職業や夢に関係してくる。

## (2) 子どもたちが自覚する本人の性格

今の子どもたちが自分をどのようにとらえているかを見たのが表2である。比率の高さから見れば、最も多いのが「動物が好き」や「活発」であり、「何かを作り上げるのが好き」という子どもも40.0%いる。「冷静」「面倒見がよい」「集中力がある」「優しい」「正義感がある」は20%ほどである。

表2 自覚する自分の性格

性格	%
活発	46.8
冷静	22.6
集中力がある・よく考える	20.9
何かを作り上げるのが好き	40.0
正義感がある	11.9
人前で何かをするのが好き	17.2
真面目	12.4
優しい	20.1
手先が器用・センスがよい	15.4
動物が好き	48.0
面倒見がよい	21.6
他国の文化・言語に興味がある	15.4
冒険心がある	33.4
その他	11.4
基数(402)	100.0

402名を100.0%としたときの比率である。(複数回答)

表の中から回答数が多かった、a「活発」、b「何かを作り上げるのが好き」、c「動物が好き」、d「冒険心がある」という性格について、性別や学年別の違いがあるかどうかを見ると次のような結果であった。

- a「活発」であるかどうかについては、男女での違い、学年による違いはなかった。
- b「何かを作り上げるのが好き」であるかどうかについては、男女で違いは見られないが、学年による違いでは、有意差が

見られた。小学生では60%に近いが、中学生では、各学年30%台であり、20%近くの差がある。

c「動物が好き」かどうかでは、男女での違いが見られ、女子に多く、男子に少ない傾向が見られた。学年による違いはなかった。

d「冒険心がある」かどうかでは、男女での違いも、学年による違いも見られなかった。

つづいて、家庭で、「親から言われること」がどのようなことであるかを示したのが表3である。日ごろ、親からどのようにいわれているかは、子どもの成長の過程で大きな影響の一つと考えられる。

表3 親からいわれる「なるべき人」の像

どのような人か	%
優しい人	28.1
偉い人	4.0
お金持ちな人	8.7
強い人	12.2
誰かを助けられる人	21.6
責任感のある人	17.9
真面目な人	9.7
何かを作り出す人	2.2
資格（技術）を生かして働ける人	11.7
社会で役に立つ人	13.7
幸せな人	19.4
その他	8.0
特にない	34.8
基数（402）	100.0

402名を100.0%としたときの比率である。（複数回答）

表3に見る限り「特にない」という回答が34.8%と最も多い。親から言われることとしては、「優しい人」が最も多く28.1%である。次が「誰かを助けられる人」の21.6%で、ほ

かの項目は20%に達していない。

これらの中から、a「優しい人」、b「誰かを助けられる人」、c「幸せな人」、さらに、d「特にない」の項目と、性別、学年の違いを見ると次のようであった。

a「優しい人」では、性別によってやや違いが見られ、学年によって異なっている。女の子の方が該当すると答えている比率が高い。学年別では、中学生よりも小学生のほうが比率は高い。

b「誰かを助けられる人」では、性別による違いも、学年による違いもなかった。

c「幸せな人」では、性別では女の子の方が男の子より10%くらい高く25%であるが、学年による違いはなかった。

d「特にない」では、性別による違いはない。しかし、学年別では差が見られ、中学生の方が小学生よりも比率は高くなっている。

### 3 「将来やりたい仕事」について

#### (1) やりたい仕事の内容

では、子どもたちは将来どのような仕事をしたいと思っているのであろうか。表4がその結果を示すものである。回答数の多い順に示してある。これは自由回答ではなく、職業をリストアップして○をつけてもらったものである。

もっとも多いのは「スポーツ選手」であり、5人に1人の割合になる。多様化している一方で、人気は集中しているといえる。先に見た「趣味・特技」の場合の順位に見られる傾向である。

このような傾向は、他の調査でも指摘されている。小学生男子のなりたい職業ベスト20に上位で入るのは、「野球選手」「サッカー選

手)、小学生女子では「保育士・幼稚園の先生」であり、他を引き離している。同様に、中学生男子では「野球選手」、中学生女子では「保育士・幼稚園の先生」が小学生同様、他を大きく引き離している(注5)。

性別のクロス集計の結果を見ると、男の子と女の子とでは違いが見られる。「保育士」は女の子の10.5%が選択しているが、「スポーツ選手」は男の子の32.6%、女の子の7.9%が選択している。

表4 将来やりたい仕事

仕事	比率	仕事	比率
スポーツ選手	19.4	飲食店店員	1.2
保育士	5.0	他の店員	1.2
芸能人	3.2	声優	1.0
美容師	3.0	警察官	1.0
建築関係	2.7	通訳	1.0
ゲーム関係	2.7	医師	0.7
公務員	2.5	学者・博士	0.2
トリマー	2.5	弁護士	0.2
デザイナー	2.2	栄養士	0.2
教師	2.0	金融関係	0.2
看護師	2.0	パイロット	0
パティシエ	2.0	漁師	0
漫画家	2.0	議員	0
サラリーマン	1.7	その他	20.4
調理師	1.7	無い	10.0
自動車関係	1.5	不明	4.7
薬剤師	1.5		
合計			100.0 (402)

学年別でも有意差が見られる。「保育士」は学年によって大きく違うわけではないが、4%から5%ほどの比率である。「スポーツ選手」についてみると、小学校5年生では35.7%が選んでいるが、学年の上昇とともに次第に

減少して、中学校3年生では5.0%になってしまう。実際的な自分の技術・能力等の確認と自覚が、「夢」と「現実」について、他の項目と比較していち早く気づく結果となっているのであろう。

選択のさせ方の問題もあったかもしれないが、「スポーツ選手」以外の選択されている比率はあまり高くない。比率は少ないものの、「スポーツ選手」「保育士」に次いで第3位になるものが「芸能人」というのは、今の子どもの特徴といえるのであろう。

なお、選択肢に掲げながら選ばれていない職業項目は、「パイロット」「漁師」「議員」である。

## (2) やってみたい理由

上記に示した職業選択について、子どもたちがやってみたい理由は次のとおりである。3分の1以上の子どもたちが「特技を生かせる」ということをあげている。他の理由として多いのは、「テレビで憧れを抱いた」という回答である。

表5 やってみたい理由

理由	比率
親がしているから	5.8
親以外の関係者がしているから	1.5
テレビで憧れを抱いたから	14.3
職場体験で考えが深まったから	2.6
儲かる仕事だから	1.7
人気のある仕事だから	1.7
特技を生かせる仕事だから	34.4
以前に接して印象に残ったから	7.6
その他	25.1
不明	5.5
合計	100.0

やってみたい理由について、性別との関連では有意差が見られたが、学年との関連では見られなかった。

また、先のやってみたい職業とその理由との関係では、選択肢のカラム数が多いので有意差が出てしまうことになるが、参考までに選択する人数が多かった職業について、どのような理由が主なものであったかを示そう。

- a 「スポーツ選手」では、62.2%が「自分の特技を生かせると思うから」と回答している。
- b 「保育士」では、「自分の特技を生かせると思うから」という回答がやはり多く、36.8%が回答している。
- c 「芸能人」では、「ドラマやドキュメンタリーなどテレビを通じて憧れを抱いたから」と「自分の特技を生かせると思うから」というのがともに30.8%である。
- d 「ゲーム関係の仕事」では、63.6%が「自分の特技を生かせると思うから」と回答している。

現在学校では職業選択について熱心な取り組みが、キャリア教育のもとで進められている。それとの関連が予想されるが、「職場体験を通して考えが深まったから」という理由を選択するものが多かった職業は、「飲食店以外（花屋、洋服の専門店等）の店員」であり、40%（5人のうちの2人）が選んでいる。職場体験がこうした職業に限定されるとなると、問題はあるかもしれない。しかし、「夢は夢」なのであり、学年が進めば、さらに変化するものでもある。

### (3) 将来の仕事についての会話

ここで、子ども自身の将来の職業について、

友達、先生、そして親と、話すことはあるのだろうか、また、話しているのだろうか。それぞれについての結果は次のようであった（表は省略）。

友達と話すかどうかでは、「話をするところがある」という子どもが34.6%であった。学校の先生と将来の職業について話したいかどうかという希望をたずねた質問では、「話したいと思う」という子どもは、わずか10%であった。「思わない」という子どもは47.5%であった。

親と将来の仕事について話したことがあるかどうかという、これまでの経験を聞いた質問では、「ある」という子どもは66.2%であり、かなりの子どもは親とは話したことがあるといえよう。

職業選択について、親と話したり友達と話したりしてはいるが、学校の先生とはあまり話をしていない実態が見られるようである。

性別とのクロス集計では、「友達と話すかどうか」との関連に有意差が見られ、学年とのクロスでは「先生と話したいかどうか」との関連に有意差が見られた。女の子の方が友達と、話をしている。また、「話したいと思う」という回答は、小学校6年生で23.1%、中学校3年生で10.5%であり、他の学年での「話したいと思う」という回答は10%に満たない。

## 4 子どもたちが「あこがれる人物」

具体的に見えるものとして、自分の将来を考える際のモデルになる可能性がある、「あこがれる人物」として、子どもたちはどのような人をあげるだろうか。それを見たのが、表6である。

表6 小中学生のあこがれる人物

したいこと	比率
職業	13.9
複数記入	12.4
個人生活	10.9
スポーツ選手	10.4
社会貢献	12.0
製作・制作・創作	4.7
旅行・空間移動	4.2
お金・財産	3.7
スポーツ・運動	3.7
物の取得	2.0
名誉	1.7
学習・研究	1.5
支配・征服	1.5
音楽	1.0
性格	0.2
その他	2.2
分からない	1.7
なし	5.5
不明	8.2
合計 (402)	100.0

子どもたちがあこがれる人物は、「スポーツ選手」「芸能人」である。圧倒的にこの二者が多い。そして、第3位に「先輩」がくる。他の権威ある人物よりも身近な自分と同じ程度の人間にあこがれている。

先生、家族は、「あこがれる」という点での影響力では、先輩に及ばないということになる。

性別では、有意差があり、男の子では「スポーツ選手」が多く41.4%、女の子では「芸能人」が18.5%、「先輩」が18.0%である。学年別でも有意差が見られ、比率が高いものを示すと、小学校5年生から中学校1年生までは「スポーツ選手」が多く、中学校2年生になると「スポーツ選手」がやや減り「先輩」と同じく20.0%である。中学校3年生では「芸

能人」が19.3%、「スポーツ選手」が16.9%である。

## 5 子どもたちは何がしたいか

### —子どもの夢—

次の表7は、「あなたは将来、何でもできるなら何がしたいですか」とたずねた結果である。子どもの憧れの人物や、つきたい職業については先にたずねたものであるが、空想を広げていろいろな回答が得られるのではないかと予想していた。

表7 何でもできるなら、将来したいこと  
(大項目分類)

したいこと	比率
職業	13.9
複数記入	12.4
個人生活	10.9
スポーツ選手	10.4
社会貢献	12.0
製作・制作・創作	4.7
旅行・空間移動	4.2
お金・財産	3.7
スポーツ・運動	3.7
物の取得	2.0
名誉	1.7
学習・研究	1.5
支配・征服	1.5
音楽	1.0
性格	0.2
その他	2.2
分からない	1.7
なし	5.5
不明	8.2
合計 (402)	100.0

しかし実際は比較的同質的な回答と、将来の職業的な希望を表明するなどに限定された傾向が見られた。「夢」というのが無鉄砲な

願望ではなく、現実味を帯びた実現可能なものととられるようになってきているのかもしれない。

表8 大項目に含まれる内容の一例  
 (「個人生活」の場合の全44件の内容)

個人生活の内容
・ たくさんの動物と触れ合いたい
・ ハーレム
・ ハイローラになってラグジュアリーな車をブンブンのりまわす。
・ 結婚
・ ひきこもり
・ のんびり暮らしたい
・ 好きな仕事をやって普通の生活をする。
・ お金をたくさんもらってのびのび暮らしたい
・ ゲーム
・ ふつうに生きてたい。
・ 楽しく暮らす
・ 楽に暮らしたい
・ 結婚して幸せになる
・ 犬をいっぱいシャンプーやカットして犬を2匹飼いたい
・ 好きなことをやって楽しく暮らしたい
・ 幸せな家庭をつくる
・ 幸せな家庭をもつ
・ 幸せになりたい
・ 子どもを産みたい!
・ 子どもを産む
・ 自分のやりたいことがしたい
・ 人生を長く生きる

・ 素敵な人と結婚して幸せに暮らす
・ 田舎で日本風の家に住みたい
・ 都会に住みたい
・ 動物とたくさん触れ合って、動物の事をよく知りたい
・ 動物をたくさん飼いたい
・ 普通の社会人で野球とかができれば良い
・ 普通の生活
・ 平和に暮らしたい
・ 魔法のランプを手に入れ、自由気ままに暮らしたいです。
・ 毎日遊んでいたい
・ 漫画家になって漫画に自分の作品のせたい
・ 目立つこともなく、問題がなく、平穏な暮らしをしていきたいです。
・ 遊びたい
・ 遊びたい
・ 良い生活
・ 緑あふれる大きな家に住みたい。
・ やりたいことをやってのんびりしたい。
・ 一日全部自由な時間
・ 家の仕事をたくさんしたい
・ 家の中に長い間いたい。
・ たまには、夜みんなで遊びたい
・ 中学校のメンバーと今後も一緒にいたい。

子どもたちが自由に書いた内容から、ある程度の分類ができる程度にまとめた結果が表である。表は回答比率の高い項目順に示してある。

本来ならば、それぞれの大項目の内容をつぶさに示さなければならぬところであるが、分量の関係上、例示にとどめる。これとわかる職業名や仕事名が書かれている場合は、「職業」(につきたい)と分類した。また、2つ以上の内容が書かれていた場合は、「複数記入」とした。

「スポーツ選手」(になりたい)という場合は、明らかに選手であることがわかるような表現で書かれている場合である。「サッカー」としか書かれていない場合は、「スポーツ・運動」(がしたい)と考え、そちらに分類した。「社会貢献」は人のためにつくす・温暖化防止・戦争をなくしたいなど、「製作・制作・創作」は、作詞・作曲をしたい・ゲームを作る人・お菓子を作るなどが該当する。「旅行・空間移動」は、外国に行きたい・鳥になって空を飛びたい・世界旅行などである。「お金・財産」は、金持ち・お金を貯める・儲けるなどで表現されている場合である。「物の取得」は、食べたい・洋服がほしい・家を建てたいなどが該当する。「名誉」は、名を残す・社長になりたい・目立ちたいなどが書かれている場合に、判断した。「学習・研究」は、学ぶ・勉強したいなどが書かれている場合である。「支配・征服」は、世界征服・地球を自分のものにしたい・時間をとめるなど、「性格」は「やさしくなりたい」1件のみであった。最後に、わかりづらいと思われる「個人生活」の記入例を提示すると表8のようになる。

先の表7の項目は大分類にまとめ直したものであるが、性別に見て多いものを掲げると、男の子では、「スポーツ選手」17.3%、「職業」10.4%、「複数記入」9.4%で、女の子では、

「職業」17.5%、「複数記入」15.5%、「個人生活」13.0%の順であった。

また、学年別では、小学校5年生では「スポーツ選手」22.0%、小学校6年生では「職業」26.2%、中学校1年生では「スポーツ選手」17.9%、中学校2年生では「個人生活」、中学校3年生では「個人生活」と「複数記入」がともに15.1%であった。

性別や学年によってやや傾向が異なることうかがえる。だが、全体としては、「とっぴでもない夢」を描く子どもたちは少なく、実現可能な夢を現実的に考えているようである。

## まとめにかえて

### — 「遠くを見る目」を持つために—

子どもの未来は子ども自身が決めることは当然である。しかし、決める際に判断の根拠として何が大切か、何を考慮しなければならないかを知ることにもまた必要である。学年の上昇とともに子どもたちの判断や自己評価も変化してくることが、今回の調査結果からも知ることができた。だが、親や教師を当てにすることが少なく、テレビや先輩、友達の影響が大きいとすれば、果たしてこれでよいかと考えてしまう。

やりたい仕事があるか、憧れの人がいるか、将来何でもできるならば何がしたいか。それぞれの質問に、子どもたちは現在の趣味・特技をもとに答えを出しているように思われる。「やりたい仕事」はスポーツ選手、保育士、芸能人。「憧れの人」は、スポーツ選手、芸能人。「将来何でもできるならば何がしたいか」には、職業をあげ、個人的な自分の生活の充実を求めるとともに、スポーツ選手になりたいという。すべての子どもがそのよう

に考えるわけではないが、おとなは一体何を子どもたちに残すことが必要なのだろうか。

子どもたちの「夢」について、その一端を見てきた。更なる検討が必要であるが、残された課題も多い。日ごろの「趣味や特技」が職業選択に結びついてほしいという子ども自身の「願い」や、やりたいことが自分の趣味・特技を生かすことであるという自信が表れている。同時に、自分の性格などが十分に理解されていないこと、親からどのような人間になれとも言われなくなっている。こうした点について、もう少し踏み込んだ議論をするためには、拡大した調査が必要である。

夢を夢で終わらせない努力は大切なことである。しかし、その実現にしか目が届かないとしたら、子どもたちは次の世代に何を残すことになるであろうか。

(注1) 「夢見る力」をとりもどそう 世代を超える価値を求めて：毎日新聞・社説 (2004/1/5)。

(注2) 東京家政大学文学部心理教育学科の平成18年度の授業科目である『社会調査 (実習を含む)』で実施された。今日、学校を対象に調査を実施することはたいへんに難しくなっている。その内容が、家族構成等に関わる場合は特にむつかしい。調査票はそうした内容を含んでいたため、注意深く実施された。ご協力いただいたクラス担任と児童・生徒の皆さんには特に感謝している。調査の実施期間は、平成18年10月から11月である。

(注3) 有効回収票数は、さいたま市等が125、

鳩ヶ谷市が181、狭山市が96。学年別回収数は、小学校5年生：59、小学校6年生：65、中学校1年生：137、中学校2年生：34、中学校3年生：107。なお、地域と学年の関係には偏りがあるが、地域と性別、学年と性別の間には、統計的に関連・有意差はない。

(注4) 回答者の「趣味・特技」の記入の仕方はさまざまであった。本来ならば、「何を、どうする」という分析が必要であろうが、「何を」の部分しか書かれていない場合があり、それを踏まえて名詞を中心に分類することとした。それをさらに分類し、名詞で表現できる項目に統一し、表を作成した。たとえば、「映画を見る」は「映画鑑賞」に含まれている。

(注5) ベネッセ『子どもの生活実態基本調査』(2004年11月～12月実施、2005年8月報告書刊行。それがここでも確認されたことになる。